

「違っていても仲よくしようではなく、違うから仲よくしよう」



園長 河原 宏子

入園、進級し2ヶ月がたちました。すみれ組さんは、年長としての自覚をもち、いろいろな活動に積極的に取り組む姿が見られます。誕生会の司会や当番活動など、課題活動を友達と一緒に考えながら気持ちをあわせて取り組んでいます。すべての活動に自信がうかがわれ、頼もしく感じられます。

ゆり組さんは、幼稚園生活の仕方を知り、のびのびと自分を出し始めてきました。好きな遊びの時と、みんなで活動するときの区別がつくようになり、少しずつはじめをつけるということの意味を分かり始めています。時にはもっと遊びたくて、「片付けるのいや」とか「まだ遊びたい」と言う姿も見られますが、担任の先生が「これから楽しいことがあるよ」という言葉を一人一人にかけると、興味津々な表情で集まっています。担任と触れ合いながら信頼関係がつきはじめてきている姿がうかがわれ、嬉しく感じています。

さて、表題の言葉は詩人のまどみちおさんの言葉です。まどさんは童謡『ぞうさん』『一年生になったら』の作詞で知られています。104歳で亡くなりましたが、詩の他にも多くの大切にしたい言葉を残しています。

『ぞうさん』の歌について、まどさんはこう話しています。最初にぞうさんに話しかけているのは、実は「ぞうさんはみんなと違ってお鼻が長いね。」と、からかっているのだそうです。でも、ぞうさんは毅然と「そうだよ。母さんも長いので、そして母さんが大好きなのよ。」と答えています。そう答えられた方は、「そうか、大好きな母さんと同じなのね。そう言えば僕も同じだな。」この歌には、互いの違いを大切に認め合おうという願いが込められているそうです。ぞうさんが毅然と答えているところが素晴らしいです。

いじめは、違いを認められないことから起こります。人間は心の弱さや未熟さをもってその有り様を考えると、いじめは繰り返し起こりがちでどこでも誰でも起こりうると考えざるをえません。園では、いじめを許さない姿勢を見せ、みんなが大事であるという雰囲気を醸成する指導を、粘り強く行っていきます。ご家庭でも人のもつ心の美しさや本当の強さを、子供たちに知らせていくようお願いいたします。

そのために、体験的な活動の中で、心が動いたことを言葉にして伝え合うことや、絵本などを通して思いやりの大切さを伝えていくことが必要と考えています。日頃、緑幼稚園では、困っている友達に寄り添う姿がたくさん見られ微笑ましいです。ご家庭でのお子さんへの働きかけのおかげでしょう。一緒に子供たちに温かな思いやりの心をゆっくり育んでいきましょう。

～6月〈ふれあい月間〉東京都教育委員会 いじめ防止強化月間～

## 今月のねらい

### <年少ゆり組>

- ・同じ場で遊んでいる友達の存在に関心をもち、一緒に触れ合ったりかかわったりする楽しさを感じる。
- ・砂遊びや水遊び、プール遊びに親しむ。

### <年長すみれ組>

- ・興味のある遊びに取り組む中で、友達と一緒に目的をもち、考えたり試したりすることを楽しむ。
- ・遊びや生活の中で、自分の思いを出したり相手の気持ちに気付いたりしながら、友達とのつながりを感じる。
- ・水遊びの約束を守り、開放感を味わいながら友達と触れ合って遊ぶことを楽しむ。

園だよりや幼稚園での最近の様子を  
ホームページにて配信しています。  
ご覧ください。



緑幼稚園 HP  
QRコード